



Global Network
on Extremism & Technology

オフラインとオンラインの過激化： どちらがより大きな脅威か？

2014年から2021年までの西側諸国8か国の
439人のジハード主義者テロリストの成果を究明する

Nafees Hamid および Cristina Ariza の共著

エグゼクティブサマリーと概要

GNETはロンドン大学キングスカレッジの *International Centre for the Study of Radicalisation* (ICSR：過激化研究国際センター) が取り組む特別プロジェクトです。

本レポートの著者は
Nafees Hamid および *Cristina Ariza* です。

Global Network on Extremism and Technology (GNET: 過激主義とテクノロジーに関するグローバルネットワーク) はテロリストのテクノロジー利用の理解と対抗措置のために業界が資金提供する独立したイニシアティブ、Global Internet Forum to Counter Terrorism (GIFCT: テロリズムに対抗するためのグローバルインターネットフォーラム) の支援を受けた学術研究のイニシアティブです。GNETはロンドン大学キングスカレッジの戦争研究学部の学術研究センター、International Centre for the Study of Radicalisation (ICSR) により召集され、統制されます。本文書に含まれる見解と結論は著者の見解と結論であり、明示、暗示を問わず、GIFCT、GNETまたはICSRの見解と結論を代表するものではありません。

お問い合わせ

ご質問、お問い合わせおよび本レポートの追加コピーに関しては以下にお問い合わせください。

ICSR
King's College London
Strand
London WC2R 2LS
United Kingdom

T. **+44 20 7848 2098**
E. **mail@gnet-research.org**

Twitter: **@GNET_research**

本エグゼクティブサマリーと概要は複数の言語(アラビア語、英語、フランス語、ドイツ語、インドネシア語および日本語)で提供されています。GNETのその他の出版物同様に、これらおよびレポート全文(英語のみ)はGNETのウェブサイト www.gnet-research.org から無料でダウンロードできます。

エグゼクティブサマリー

質問：より大きな脅威となるのはオンラインまたはオフラインで過激化した者か？どちらのグループが探知しやすく、攻撃を実行する比率が高く、より多くの死傷者を出すか？若者と年長者、男性と女性の間で犯罪のパターンに相違点があるか？本レポートではこれらの質問を解明する。

データベース：我々は2014年1月1日から2021年1月1日までに発生した245件のテロ事件に関与した439人の犯人のデータベースを作成した。このデータベースは公表されたすべての攻撃と事前に阻止された攻撃の広範なサンプリングを含んでいる。以下の西側諸国8か国における攻撃はすべてジハード主義者と関連していた。オーストラリア、オーストリア、ベルギー、フランス、スペイン、英国および米国。

過激化のタイプ：我々のデータベースによると、過激化は主にオフラインで起こっており、データベースに含まれる者の半数以上はオフラインのネットワークを通じて過激化した。

成功率と死傷者数：オフラインで過激化した者による攻撃の成功率はオンラインで過激化した者による攻撃の成功率の3倍だった。オフラインで過激化した者による攻撃の死傷者数はオンラインで過激化した者による攻撃の死傷者数の18倍だった。オンラインで過激化した者による攻撃の失敗率は成功率の約8倍だった。

集団攻撃：オフラインで過激化した者が集団で攻撃する、または攻撃を企てる可能性はオンラインで過激化した者の約3倍だった。

集団攻撃の成功率：集団による攻撃計画は成功するより警察に阻止され失敗する場合が多かったが（過激化がオンラインまたはオフラインにかかわらず）、オフラインで過激化した集団による攻撃は単独の攻撃より多数の死傷者を出した。

家族と友人：過激化した友人がいる者の87%と過激化した親戚がいる者の74%は共同で攻撃を計画したり、実行した。

外国人戦士：外国人戦士の大半はオフラインで過激化した。彼らの攻撃の成功率は非外国人戦士の成功率と変わらなかった。ただし、成功率は彼らがテロリスト養成所で1年以上訓練を受けた場合は上昇する。

年齢：オンラインの過激化は若者（2000年以降に生まれた者）の間で増加しているが、若者を含む大半の者は依然としてオフラインで過激化している。

性別：より多くの女性はオンラインで過激化しているようである。

要点：オフラインで過激化した者は数的にオンラインで過激化した者を上回り、より高い比率で攻撃を実行し、より多くの死傷者を出している。

概要

政府、ソーシャルメディア会社および一般人はオンラインで過激化し、凶暴な過激主義に転向する者の脅威にますます懸念を抱くようになっている。しかし、この懸念に関する証拠基盤はまだ十分に形成されていない。例えば、オフラインで過激化した者がまだより大きい脅威であるかどうかは依然として不明確である。公共および民間部門の大量の物的資源がオフラインからオンラインのイニシアティブに転換されることがあるため、この問題を経験的に探究することはとりわけ重要である。本レポートでは主にオフラインで過激化した者とオンラインで過激化した者がもたらす成果の相違点を探究する。

新しいコーディングシステムに基づいた新しいデータベースを作成することによってそれを行う。データベースは2014年1月1日から2021年1月1日までの7年間に西側諸国8か国（オーストラリア、オーストリア、ベルギー、フランス、ドイツ、スペイン、英国および米国）で起こったジハード主義者関連の攻撃（実行された攻撃のすべてと阻止された攻撃の大半）に関する情報を含んでいる。データベースは439人の者による245件の既遂および未遂の攻撃を含んでいる。データベースは犯人がどのように過激化したかに関する情報（主にオンライン、主にオフライン、両方、「非社会的」オンライン、不明、定義に関しては方法論のセクションの表を参照）を含んでいる。また、データベースは標的のタイプと場所、攻撃の成果（実行または未遂）、攻撃の致死性（死傷者数）、単独／集団要因、攻撃の手段（爆弾、銃撃、ナイフなど）、テロ組織との関連性（ISまたはアルカイダまたはその他グループに触発された、または画策された）、攻撃者の属性（性別、年齢、教育レベル、民族、社会経済的地位など）に関する情報も含んでいる。

犯人と攻撃のサンプルはSTART Global Terrorism Database（世界のテロリズムに関するデータベース）、ジョージワシントン大学の過激主義研究プログラムのデータベース、フランスで発生したテロ事件に関するフランス国民議会のデータベース、英国の独立系評論家のテロリズムに関するデータベース、Observatorio Terrorismo and Seguridad Internacionalのスペインにおける攻撃計画のデータベースなどのテロリストの攻撃に関する既存のデータベースから抽出した。これらのデータベースに含まれる情報に加えて、我々はオープンソース調査を通じて追加の攻撃と攻撃計画を確認した。これにはデータベースに含まれる諸国の裁判所の書類へのアクセスが含まれた。また、我々は警察捜査官、攻撃者の家族や友人、弁護士およびその他の事件に精通している人々と多数のインタビューを行った。

我々の調査結果は、主要な脅威は主にオフラインで過激化した者によるものであることを示唆している。データベースの半数以上（54%）は主にオフラインで過激化したのに対して、主にオンラインで過激化した者の比率は18%に過ぎなかった。主にオフラインで過激化した者が攻撃を実行する比率は29%で、オンラインで過激化した者が攻撃を実行する比率12%を大きく上回っている。しかし、オンラインで過激化した者の数は過去7年間、主に若年層の間で増加しつつある。とはいえ、この年齢層ですら、オンラインの過激化はオフラインの過激化を下回った。

オンラインの非社会的過激化（社会的なやり取りを伴わずにネット上のプロパガンダに触れること）は全体の2%のみであった。攻撃を実行する比率は外国人戦士（29%）と非外国人戦士（28%）でほぼ同レベルだった。実行された攻撃の60%以上は単独の攻撃者（67%）によるも

のだった。実行の比率が最も高かったのはオフラインで過激化し、単独で行動した者だった（60%が攻撃を実行した）。このプロフィールに一致する大半の人物は警察に知られているか、監視中（68%）で、犯罪歴または収監歴があった（74%）。外国人戦士が大きな比率（26%）を占めていた。ただし、単独で攻撃を仕掛けたにもかかわらず、35%は友人や家族を過激化していた。

過激化の背景とは無関係に、集団による攻撃の実行率はより低かった（15%）。オフラインで過激化したが、集団で攻撃した場合の攻撃の実行率は低く（19%）、これはオフラインで過激化し、単独で攻撃した者の実行率の3分の1だった。

しかし、オフラインで過激化し、集団で攻撃した場合の死傷者数は単独で攻撃した場合の死傷者数を15%上回った。これらの集団行動者の半数以下は警察庁のテロリズム対策室の監視中であったか同対策室に知られていたか（44%、テロリズム対策室の監視中または同対策室に知られていた比率はオフラインで過激化し、単独で攻撃を実行した者の3分の2）、収監歴があった（47%）。オンラインで過激化した者が（単独および集団で）攻撃を実行した比率は12%のみであった。

他の研究と異なり、我々のデータベースは攻撃を実行した者または実行する前に阻止された者のみを含んでいる。したがって、それはアンケート調査またはそれほど代表的ではないサンプリング手法に基づいた調査よりも西側諸国8か国における7年間にわたる実際の脅威状況をより正確に提示している。我々の調査結果によると、主な脅威はいまだにオフラインで過激化した者によるものであった。オフラインで過激化した者はより多数で、治安当局の探知を回避するのがよりうまく、攻撃を実行する可能性がより高く、攻撃による死傷者数がより多い。



お問い合わせ

ご質問、お問い合わせおよび本レポートの追加コピー
に関しては以下にお問い合わせください。

ICSR
King's College London
Strand
London WC2R 2LS
United Kingdom

T. **+44 20 7848 2098**
E. **mail@gnet-research.org**

Twitter: **[@GNET_research](https://twitter.com/GNET_research)**

GNET のその他の出版物同様に、本レポートは GNET
のウェブサイト www.gnet-research.org から無料で
ダウンロードできます。

© GNET